

ひとりごと

こんな時期だけれど・・・

「なぜこんな時期に来てしまったのだろう」とは、恐らく私と同時期に文部科学省へ赴任してきた大半の研修生諸氏の共通認識ではなかろうか。市役所職員である私が研修生として上京し1年数か月が経過、2年間の研修期間もいよいよ終盤へ差し掛かろうとしている。言わずもがな、期待していたような職場の皆さんとの交流等はコロナ禍により大きく制限されてしまった。「コロナが収まったら」の言葉はもはや誘いを婉曲に断る表現になりつつある。最悪の2年間を引いてしまったと思いながらまっすぐ家路についた夜は数知れない・・・。

しかしながら人の縁とはまた不思議なもので、このタイミングにも意味があると思わされることもある。研修2年目を迎えたこの春、新しく配属された課には偶然にも高校の同級生M君が（彼は大学職員になっていたが）同じ研修生として赴任してきた。私が今こうして「ひとりごと」を書いているのは、外ならぬ彼に頼まれたからなのである。地方から東京に来て人の多さに驚くかと思いきや（もちろん驚いたが）、田舎の旧友とぼったり同僚になる世間の狭さに、何とも狐につままれたような感覚だ。

また、“こんな時期”だったが故に始めたチャレンジがあるのでご紹介したい。私は趣味である男子バスケBリーグ観戦がきっかけで、上京後も地元クラブのファン仲間とSNS等を通じた交流を続けており、一人暮らしながら幸いにも孤独感の薄いステイホーム期間を過ごすことができている。つい最近、そんなファン同士のやりとりから生まれたノリで、国内のバスケ指導者用コーチライセンスの取得に挑戦することになった。入門編であるE級ライセンスはeラーニングの受講のみで、申込から資格取得まで5日とかからぬささやかな挑戦だったが、ほぼ思いつきのこの取組は予想以上に私の世界を大きく広げてくれた。学んだ内容以上に良かったのは、新しいことを学ぶことそのものの素晴らしさを再認識したことだ。新しい知識に触れ視界がブワッと広がる感覚はクセになってしまいそうだ。まさに生涯学習だが、知的好奇心と行動力は人生を豊かにするための土台と言える。今後は更に上級のライセンス取得を目指すとともに、まだ見ぬ自分が知らない世界にも興味本位で首を突っ込むことをぜひ習慣化しようと思う。そうと決まれば話は早い。次は何をしようか。こういう時は何人かで賑やかに酒でも飲みながら話すと良いアイデアが浮かぶのだけれど、今はコロナ禍がそれを許してくれない。ああ、なぜこんな時期に来てしまったのだろう。

(R.S)